

サステナビリティレポートのご提供サービス

SDGsが採択され、サステナビリティをキーワードとした活動は各国で活発化し、ESG情報の開示、また脱炭素化が叫ばれています。SDGsの潮流の中、今後、サステナビリティレポートの重要度が不動産投資市場で増すと予想されます。株式会社イー・アール・エスでは、このような不動産市場を取り巻く背景に鑑みて、不動産のサステナビリティに係る調査・レポート作成サービスを提供します。

1. レポートの特徴とユーザーにとってのメリット

レポートの特徴

- ✓ 一般性と透明性: 国内の認証制度の評価項目に準拠

- ✓ CASBEE (建築環境総合性能評価システム)
- ✓ DBJ Green Building 認証

以下に視点を置きレポート

- ✓ 省エネ、環境性能・認証
- ✓ 自然災害リスクとレジリエンス
- ✓ 健康性、快適性

ユーザーにとってのメリット

- ✓ 自社の保有物件や取得物件の取り組み及び取得認証の確認、ステークホルダーへの開示情報として利用
- ✓ CASBEE、DBJ Green Building認証取得のための自己査定に活用

2. レポートの目次

1. 概要

2. ユーティリティデータの収集および評価

- 1.1 エネルギー/温暖化
- 1.2 水・・・水使用量等

3. サステナブル/グリーンビルディング認証

4. サステナビリティへの取り組み状況調査

- 4.1 外皮性能
- 4.2 熱源/空調/換気
- 4.3 照明設備
- 4.4 その他
- 4.5 水資源保護
- 4.6 ゴミの3R
- 4.7 LCC低減

5. 自然災害に対するレジリエンス

- 5.1 自然災害危険度
- 5.2 建物の耐震性
- 5.3 自然災害対策
- 5.4 周辺環境への取り組み

6. ウェルネスへの取り組み状況調査

- 6.1 健康性/快適性
- 6.2 利便性
- 6.3 プログラム・・・メンタルヘルス対策等

7. その他

- 7.1 コミュニティ/多様性
- 7.2 生物多様性/敷地

章の分類

- ・省エネ、環境性能・認証
- ・自然災害リスクとレジリエンス
- ・健康性、快適性



3. レポートのイメージ：省エネ、環境性能・認証

- 評価結果の記入はチェックリスト方式(特記事項は自由記入)
 - ・ アンケートによる自己申告制
 - ・ 実地調査において、内容の精査、不足点を補う



II. ユーティリティデータの収集および評価

2. エネルギー/温暖化ガス

評価項目	数値、評価内容
(1) エネルギー使用・排出原単位(計算値) 1t当りCO ₂ 排出量	一次エネルギー(計算値) 1t当りCO ₂ 排出量 188kg-CO ₂ /m ² ・年
(2) エネルギー使用・排出原単位(実績値) 1t当りCO ₂ 排出量	一次エネルギー(実績値) 188kg-CO ₂ /m ² ・年 (図-1 参照) CO ₂ 排出量 188kg-CO ₂ /m ² ・年 過去の実績は何年分調査可能か(0~5年分)
(3) 省エネルギー(仕様評価)	-
(4) 省エネルギー性能	1) 設備効率化 BEL、BE1mまたはERR(CEO含む)の算出基準 □該当なし ■BEL: 0.8 □BEL: 0.8 □主要入力法 ■エネルギー削減率: CERR □CERO □該当なし □BEL: 0.8 ■PAL: 低減率: 88%
2) 外皮性能	利用年 0.0 □該当なし ■太陽光発電システム □風力発電システム □その他
(5) 再生エネルギーの利用(CO ₂ 削減)	■再生エネルギーをクリアしている □省エネ基準をクリアしていない □実績値を把握していない

4. レポートのイメージ：自然災害リスクとレジリエンス

- 立地特性(ハザード)に関する部分はERSの公開資料から調査
- レジリエンスに関する部分はアンケート調査

